

第12回 縄文楽検定 中級 解答集

令和2年3月作成

テキストから76%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）
 火焰土器の国：新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』（新潟日報事業社、平成21年4月刊行）。
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 ガイドブック』（信濃川火焰街道連携協議会、平成30年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）
 聖火台アピール宣言：「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」アピール宣言について
 ※テキストⅠの（）内は、『火焰土器の国新潟』内のページ番号です。

No.	解	問題の出典と解説
1	c	<p>テキストⅠ p5など</p> <p>aは津南町堂平遺跡出土の火焰型土器、bは三条市長野遺跡出土の火焰型土器、cは長岡市岩野原遺跡出土の火焰型土器です。</p>
2	d	<p>テキストⅠ p8(139)、テキストⅡ p20</p> <p>a昭和11年(1936)は馬高遺跡で「火焰土器」が発見された年、b昭和54年(1979)は馬高遺跡が国史跡に指定された年、c平成2年(1990)は「火焰土器」が国の重要文化財に指定された年です。</p>
3	c	<p>火焰土器の国p32～40</p> <p>aとbは長岡市岩野原遺跡出土、ウは長岡市山下遺跡出土の火焰型土器です。 火焰型土器は、時代が新しくなるにつれて器形が縦長で、頸部のくびれが大きくなるとともに、鶏冠状突起が上に向かって高く伸びていきます。ウは鶏冠状突起が完成しておらず、4つの突起の大きさも不統一です。研究者によっては、これを火焰型土器に含めない人もいます。イとアは火焰型土器としての要素がきちんと揃っています。ウとは異なり、4つの鶏冠状突起が同じ大きさにです。イは鶏冠状突起が低く横長で、器形も寸胴で古い様相を示します。一方、アは鶏冠状突起が縦に伸び、頸部がくびれた器形となっていて、より新しい段階に分類されます。</p>
4	d	<p>火焰土器の国p42</p>
5	b	<p>テキストⅠ p25</p> <p>b野首遺跡は火焰型土器・王冠型土器の復元個体数が最も多い遺跡です。a卯ノ木遺跡は縄文時代早期の遺跡、c赤松遺跡は縄文時代晩期の遺跡で、ともに火焰型土器・王冠型土器は出土していません。d馬高遺跡は「火焰土器」が発見された遺跡ですが、復元数は9点と少なく、意外な結果となっています。これは遺跡が史跡として保存され、面的な発掘調査が実施されていないことが影響していると考えられます。</p>
6	d	<p>テキスト外</p> <p>基本的に縄文人も現代人と歯の本数は一緒です(皆さんの中にも親知らずが4本ともない人もいますが、それは個体差と捉えます)。この問題の解答のヒントとして一番適した事例は、富山県小竹貝塚(縄文時代前期)から出土した縄文人骨でしょう。摩耗して平らになってしまった歯と、虫歯になった歯をもつ人骨が見つかっています。近年の研究では、縄文人の虫歯率は約8%(現代日本人は約31%)と推定されています。</p>
7	c	<p>テキスト外</p> <p>分析の結果、堅果類の粉を練って作っていることがわかっています。</p>
8	d	<p>テキストⅠ p14(145)</p> <p>d大木式(だいきしき)は東北南部を中心に広く流行した型式で、火焰土器の国・新潟においても、火焰型土器・王冠型土器と一緒に出てくる土器のほとんどは大木式か、その影響を強く受けた土器なのです。 a新崎式(にんざきしき)は北陸地方で流行した型式で、新潟県でも出土します。b阿玉台式(あたまだいしき)は関東地方東部を中心に流行した型式です。加曾利式(かそりしき)という型式はなく、正しくは加曾利E式です。加曾利E式は関東地方で流行した型式ですが、大木式の影響を強く受けています。</p>
9	補修	<p>テキストⅠ p17～18(148～149)</p> <p>補修孔と呼んでいます。惜しい解答として「修繕」「修復」というものがありました。意味としては通りますが、修繕孔、修復孔という用語はありません。</p>

10	d	テキスト外 aは黒曜石の、bは石灰岩の説明として良く使われます。
11	b	テキスト I p1(132)
12	c	テキスト I p1(132)
13	c	テキスト I p22(153) 姫川流域周辺で産出する蛇紋岩は、縄文時代、特に磨製石斧の石材として利用されました。
14		チョコレート 火焰土器の国p20 信濃川火焰街道連携協議会顧問である小林達雄・國學院大學名誉教授の命名です。板チョコが溝に沿ってきれいに割れるように、土偶も壊れやすく作られたと考えられています。
15	a	テキスト I p11(142) 王冠型土器の短冊形突起には、左側に挟り(えぐり)が入るという共通した特徴があります。まれに左右両側に挟りが入るものもありますが、右側にだけ挟りが入るものは今のところ報告されていません。このことから、aを見ると写真の左右が反転していることがわかります。
16	a	テキスト外 この土偶はお腹の部分が大きく割れて内側が見えるため、製作方法を知ることができます(参考:日本遺産ガイドブックp30)。内側に見える線は粘土紐を積み上げた輪積み痕です。縄文土器と共通するつくり方で、長岡市馬高遺跡出土の大形土偶「ミス馬高」をはじめとする他の土偶や、三角形土製品とは大きく異なっています。
17	d	火焰土器の国p4、日本遺産ガイドブックp1 設問に誤りでbが二つありました。これがヒントになったと思います。
18	c	テキスト外 十日町市久保寺南遺跡からは、縄文時代草創期の隆起線文土器のほか、石槍をはじめとする多彩な石器群が出土しており、当時の生活の様子を知るうえで重要な遺跡です。土器に付着した炭化物の分析から約15,000年前という年代が得られています。
19	b	テキスト I p19～20(150～151)
20	b	火焰土器の国p86 十日町市笹山遺跡出土の深鉢形土器。口縁部の把手に三角形土版が貼り付けられています。把手を横から見ると獣のようでもあり、とてもユニークな土器です。一見すると火焰型土器のようにも見えますが、良く見ると鶏冠状突起がなく、胴部文様も平坦で余白があるのがわかります。
21	c	テキスト I p16(147) シャモット(chamotte)は「焼成した粘土を砕いて粉にしたもの」という意味の用語です。タイ東北部などの村で行われていた土器づくりの調査成果から、縄文土器の混和材(粘土のまぜもの)として注目されるようになりました。多くの民族事例で、土器を砕いて混和材にすることが知られています。 a草のせんいは、縄文時代早期～前期の土器の混和材として用いられ、こうした土器を「繊維土器」と呼びます。b砂は縄文土器において一般的な混和材です。また、d木の実が混じっていたと考えられる土器も出土していますが、一般的ではありません。この他、変わったところではマメやムシが混ぜ込まれている事例もあります。
22	b	火焰土器の国p18 釈迦堂遺跡からは1,116点に及ぶ土偶破片が出土しています(ちなみに全国最多は青森県の三内丸山遺跡とされます)。c三条市吉野屋遺跡は、新潟県内トップクラスの土偶出土点数を誇りますが、それでも100点を超える程度です。a粥見井尻(かゆみいじり)遺跡からは、日本最古級、縄文時代草創期の土偶が1点出土しています。d棚畑遺跡は縄文時代中期の集落で、国宝の土偶(縄文のビーナス)が出土しています。
23	d	テキスト外 dの姫川はヒスイの産地として有名です。
24	a	テキスト外 問10の解答を参照のこと

25	雪国	日本遺産ガイドブックなど
26	粘土	<p>聖火台アピール宣言</p> <p>「土」と解答された方が目立ちました。特に土器づくりにおいて、単なる「土」と「粘土」は全く別なものです。縄文人は土器に適した粘土を探し、それを採取して土器づくりをしていたと考えられており、長岡市の三十稲場遺跡や、東京都多摩ニュータウンNo.248遺跡などでは、粘土採掘坑が発見されています。</p>
27	b	<p>テキストⅡ p21</p> <p>幅上遺跡は縄文時代中期の集落跡です。魚沼地域の遺跡では、縄文時代中期において、石器組成に占める打製石斧の比率が高くなる特徴があり、同じ十日町市の笹山遺跡や、津南町の沖ノ原遺跡、魚沼市の清水上遺跡でも同じような傾向にあります。</p>
28	c	<p>テキストⅠ p21(152)</p> <p>c魚沼市正安寺遺跡出土の石棒は、中ごろに黒い帯あり、その上(先端方向)は赤く変色しています。これは被熱を受けた痕跡です。黒色帯の下は変色等がなく、その差が明瞭なため、ここが土に埋められていた部分だと考えられています。a十日町市芋川原遺跡出土の石棒は、渦巻き模様が陽刻されるもので、数ある石棒の中でも優品の一つです。b長岡市馬高遺跡出土の石棒は、側面が砥石のようにくぼんでいます。a～cのように、破損していない石棒は実は少数で、多くはd長岡市中道遺跡出土の石棒のように、折れた状態で出土します。</p>
29	c	<p>火焰土器の国p128、日本遺産ガイドブックp35</p> <p>昭和62年(1987)、JR長岡駅の新幹線コンコースに設置されています。新幹線を利用する際にぜひご覧ください。</p>
30	d	<p>日本遺産ガイドブック巻末「構成文化財一覧」</p> <p>守門岳(構成文化財No.69)は魚沼市・長岡市・三条市にまたがる山で、二百名山の一つです。山頂稜線に作り上げられる大雪庇が有名で、その大きさは東洋一とも言われます。</p>
31	c	<p>テキスト外</p> <p>c長岡市岩野原遺跡から出土したもの。小形の石皿にクッキー状炭化物がのっています。d津南町沖ノ原遺跡でもクッキー状炭化物が出土していますが、沖ノ原遺跡のものは、丸い玉のような形状をしています。</p>
32	土器	ストーリー、日本遺産ガイドブックp2
33	d	テキストⅡ p18
34	d	<p>火焰土器の国p43</p> <p>分析の結果、非常に純度の高い銅が使用されており、彼らが高度な精錬技術をもっていたことがわかっています。一方、同じ時期、火焰土器の国の人々が持っていた斧(磨製石斧)は蛇紋岩が多かったと考えられています(問13解説参照)。</p>
35	晩	テキストⅠ p1(132)
36	中	<p>テキストⅠ p2(133)</p> <p>「ちゅう」も正解ですが、解答欄が____期となっているので、「中期」・「ちゅうき」は不正解です。</p>
37	c	<p>火焰土器の国p106～107</p> <p>長岡市中道遺跡の第51号住居跡(縄文時代中期後葉:火焰型土器より少し後の時代)の床面から、焼けこげた大量のトチノミがまとまって発見されています。トチノミの下には茅(かや)のような細い棒が束になって残っていました。このことから、カゴのような容器に入れ、棚に置いていたトチノミが焼け落ちてしまったものと考えられています。</p>
38	a	<p>テキストⅡ p18</p> <p>a魚沼市清水上遺跡からは、古い段階の王冠型土器が出土しています。b阿賀町小瀬ヶ沢洞窟遺跡は縄文時代草創期の遺跡、c新潟市的場遺跡は奈良・平安時代の遺跡、d長岡市藤橋遺跡は縄文時代晩期の遺跡です。</p>

39	d	<p>日本遺産ガイドブックp6</p> <p>d新潟市大沢谷内遺跡は縄文時代晩期の集落跡です。設問の土器のほかにも、アスファルトの塊が出土しており、アスファルト加工を盛んに行っていたと考えられています。大沢谷内遺跡の近くにある新津丘陵では、原油やアスファルトが自然に湧出しており、縄文時代の人々も、これを利用していたと思われます。</p>
40	a	<p>テキスト外</p> <p>出土人骨から、縄文時代にも抜歯(ぼっし)風習があったと考えられています(テキストⅠ p2(133))。出土人骨を良く調べると、成人は犬歯が抜かれていることが多く、さらに切歯(前歯)が抜かれるというパターンがあり、抜歯の状況によって社会的な位置づけ(年齢や婚姻、身分など)を示すという意味を持っていたことがわかります。</p>
41	d	<p>テキスト外</p> <p>トチなど堅果類のアク抜き、樹皮や木材を貯蔵・加工するための施設と考えられるものを「水場遺構(みずばいこう)」と呼んでいます。新潟県内では、村上市元屋敷遺跡が有名で、湧水内に敷き詰められたイネ科植物の上に外皮を除去した完形のトチノミがまとまって出土しています。アク抜きのために水漬けしていたものが、何らかの理由で残置された可能性も指摘されています。</p>
42	c	<p>日本遺産ガイドブックp2・巻末「構成文化財一覧」</p>
43	d	<p>テキストⅡ p12</p> <p>昭和30年(1955)栃倉遺跡の発掘調査で、日本海側諸県で初めて、竪穴住居跡の全体が発掘されました。竪穴住居跡の形状や、炉跡、柱穴の配置などを確認し、貴重な発見例となりました。</p>
44	b	<p>テキスト外</p> <p>b中村孝三郎は長岡市立科学博物館初代考古部長として、長岡のみならず新潟県の考古学をけん引しました。新潟県内で数多くの遺跡の発掘調査を手がけています。昭和31年(1936)に津南町卯ノ木遺跡の発掘調査を実施しています。</p> <p>a近藤篤三郎は長岡市関原町の考古学者で、「火焰土器」の発見者です。c藤森栄一は長野県の考古学者で、長野県の考古学をけん引した人物です。著書『かもしかみち』はおススメの名著です。d江坂輝弥は慶應義塾大学で教鞭をとった考古学者です。津南町沖ノ原遺跡などで調査団長を務めています。</p>
45	b	<p>テキスト外</p> <p>b押型文は、丸い棒状の軸に文様を彫り入れ、それを器面に回転させて連続的な文様をつける施文手法で、特に縄文時代早期に流行しました。卯ノ木遺跡は押型文土器出土遺跡の代表例です。</p> <p>a貝殻状文と呼ばれる文様はありません。cの爪形文は爪や半截工具を刺突して半円状の文様をつける手法で、縄文時代草創期の他、縄文時代中期前半にも見られます。新潟県における爪形文土器の代表例は、阿賀町小瀬ヶ沢洞窟遺跡や長岡市西倉遺跡、津南町卯ノ木南遺跡です。d押圧縄文は、縄を押し付けるようにして文様をつける手法で、縄文時代草創期に使われました。新潟県における押圧縄文土器の代表例は、津南町卯ノ木南遺跡です。まず押圧縄文が生まれ、徐々に縄を転がして文様をつけるようになっていきます(回転縄文)。押型文は、この回転施文の系譜に連なる施文手法です。</p>
46	c	<p>テキストⅡ p24</p> <p>『新潟県立歴史博物館平成23年度秋季企画展「にいがたの土偶」展示図録』によれば、c津南町道尻手遺跡は、土偶の出土点数143、三角形土版の出土点数216点とともに県内1位です。b三条市吉野屋遺跡は土偶の出土点数120で第2位、三角形土版は31点で第6位となっています(第2位は長岡市馬高遺跡の116点)。</p>
47	c	<p>ガイドブックp36</p> <p>長岡市では、平成3年(1991)に「火焰土器」を盛り込んだデザインマンホールが採用されており、街中に「火焰土器」があらわれています。約5,000年前の「火焰土器」が現代のまちづくりに生きている資料として、平成28年(2016)、長岡市岩野原遺跡出土の火焰型土器他3点が常設展示されるのに合わせて、大英博物館に寄贈されました。大英博物館で時々展示されることがあります。</p>
48	a	<p>聖火台アピール宣言</p>
49	<p>火焰型土器 聖火台アピール宣言</p>	
50	c	<p>ストーリー、日本遺産ガイドブックp4</p>